

つくしの家だより

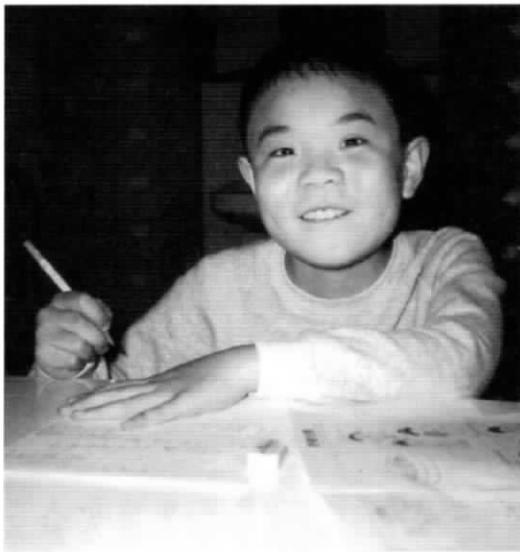
HP アドレス <http://ichiyokai.sakura.ne.jp/>

No. 101 2018. 12. 1

〒421-0522
静岡県牧之原市相良 240-1
(児童発達支援・放課後等
デイサービス)
つくしの家
(生活介護事業所)
つくしホーム
☎ 0548-52-2225
事務局 52-0825
F A X 52-1156
e-mail:tsukushihome@
aioros.ocn.ne.jp

忘れられないことば・・・

栗林 均



つくしの家の玄関を上がった左右の柱に、額に入った二枚の絵が飾られています。平成六年、十八才の秀和くんが描いてくれたゴテチャの花と、さくらの絵です。その絵を見ると、もう三十二年も前、同じこの場所での風景がふと思い出されます。

昭和六十一年四月、その年は五人のお友達が入園してくれました。私も二人の新しいお友達を担当することになりました。その一人が当時十才の秀和くんでした。秀和くんは四年生まで地域の小学校に通っていましたが、五年生から教室が二階になることになり、歩くことが少し大変になってきたためにつくしに通うこ

とになりました。ちょうどその年は、藤枝養護学校（現在の特別支援学校）が開校した年でした。つくしでそれまで訪問教育を受けていた子ども達も、通える場所に学校ができたことで本校通学に変わった子ども達もいて、この年の園児は十四人での少しさみしいスタートでした。

朝、職員室にいますとお母さんに背負われて、秀和くんが玄関から入ってきました。お母さんの背中からにっこり笑ったふくらとした顔が窓越しに見えました。秀和くんとの出会いました。車イスにずっと座っているより「床に降りて身体をいっばい動かしたいね」と、いざりながらホールを移動することや、野球が大好きだったので「手を高く上げて投げようね」と、キャッチボールをしたり、数を数えながら高遣いの姿勢をとったり、そんな時間を過ごしました。それから一年が経ち、また新しいお友達が入園してきました。そして、

二年目を迎えた秀和くんとは、少しずつお勉強的なこともしたいなと思ひ、算数の問題を留意したり、スケッチブック

に日記を書くこと、次の日にその内容に赤のペンで返事を書いたりしました。車イスにテーブルを付けて絵を描いたり、車イスの手すりに乗る小さな台を作って、その頃つくしで飼っていたインコの水やりと餌の殻をストローでふりつけて吹いて飛ばしました。新しい餌をあげる係などをお願いしました。秀和くんはゆっくりゆっくり自分で車イスを操作して係の仕事をやってくれていました。その日も同じ様に、今日やってもらうことを書いたノートを渡そうとした時です。秀和くんが小さな声で言ったのです。「ボク、この頃、くり先生と遊んでないよ！」——小さなお友達もいてあっちこち走り回って一日があつという間に終わってしまったような毎日、小学校六年生の秀和くんには、こんなこともしてほしいなという準備をして、今日の活動をお願いしてきたつもりになっていたのかもしれない。秀和くんからの精いっぱいの声でした。——台所の入口の横に飾ってある、その頃つくしにあった「24時間テレビのリフト付きバス」、雑庫のドアの上には鉛筆で描いた「スペースシャトル」の絵、園長室には中学生の時に水性ペンで点をつつ押しながら描いた「写楽」の絵もあります。どの絵も何日も何日もかけて、たかさんの時間をかけて一生懸命手を動かしながら描いてくれた絵です。寒い時に

は洗面器に入れたお湯で指先を温めながら書き続けてくれた絵でもありました。



「ボク、この頃、くり先生と遊んでないよ!」——私にとって、その言葉は、今も、子ども達との日々の中でふっと浮かんでくる忘れられない大切な言葉です。秀和くんは中学部まで藤枝養護学校の訪問教育を受けながらつくしの家で過ごし、その後は隣のつくしホームへ移りました。藤枝養護学校の初代の校長先生が訪問教育を受けていた当時の仲間達が卒業した後それぞれ家庭をまわられて絵をご指導下さいました。玄関の二枚の絵はその頃の作品です。この絵を描いた翌年の二月、十九才で秀和くんは静かに旅立ちました。



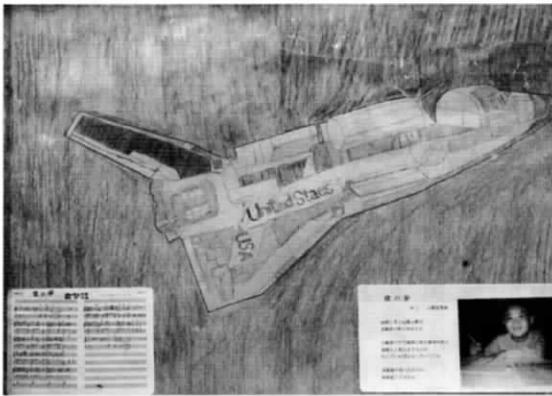
中学三年生の時に描いた「スペースシャトル」の絵に、秀和くんの詩が添えられています。

僕の夢

実現しそうな僕の夢は
太陽系の外に出ること

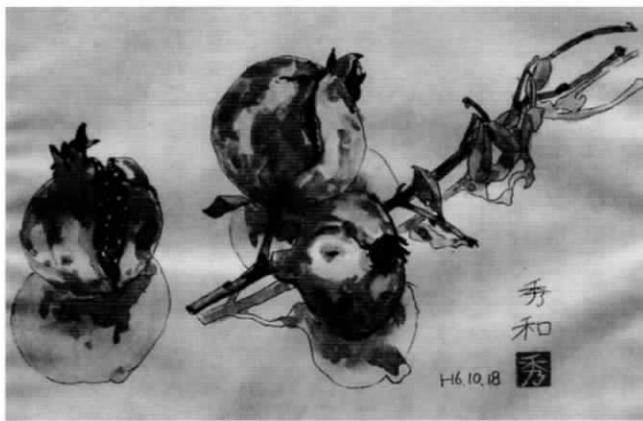
太陽系の中で地球と似た惑星があり
地球人と似たような人が
住んでいればよかったのになあ

太陽系の外へ出るのは
何世紀ころかなあ



つくしの家での最後の一年、私と秀和くんは無謀な計画を立てました。秀和くんのこの詩に私が曲をつけて「わたぼうしコンサート」に応募し

てみよう…、こっそり録音をして二人だけの秘密の応募でした。「どうかなあ…と毎日二人でひそひそ。結果は、残念ながら…、いえ予想通り?の落選。でも何だか楽しかったように覚えています。なつかしい風景です…。



あれから三十二年、たくさん子ども達がここに通い、そして次の道に進んで行きました。三年前の四月には、隣の吉田町に吉田特別支援学校が開校し、五人の子ども達がつくしに通いながら訪問教育を受けています。

あの年、十四人だった子ども達…、そして今年、四月に七人、六月に二人、九月から二人の新しいお友達

を迎え、一歳から十三才までの二十九人の子とも達と親子教室の二十一人のお友達が通っています。にぎやかな毎日です。

秋の大きな台風が去った日、青く澄んだ空の下、たくさんトンボが飛んでいました。高階紀一さんの詩を載せていただきます。

小さな質問

すいーつ と 空から降りてきて
水辺の

草の

葉先に止まると
背筋をのぼし

その子は
体ごと

神さまにきいた
なぜ ぼくはトンボなの?

神さまは
人間にはきこえない声で

その

トンボに言った

ここに今
君が必要だから

ここで出逢った子ども達一人ひとりと、いっぱい遊んで、いっぱい笑って…、これからもそんな一日一日を、みんなで大切に歩いていけたらいいなって思いました。

(二羊会理事長・つくしの家園長)

伝える・伝わること

増田 隆

窓を打つ風の音が日ごとに強さを増し、つくしの目の前の海には、白波が立ち始めました。最後の利用者さんが帰る夕方五時を過ぎる頃には、あたりはすっかり暗闇に包まれています。

今年の暦も残り一枚となりました。四月に入園した美咲さんは、手先の器用さを生かして作品作りに取り組んだり、透き通る声で歌を歌いながらホールの中を歩いていきます。自分のペースでグループ活動での運動をこなし、午後は大好きな歌を選んで静かに耳を傾けています。

最近はいろんな言葉を話すことが多くなり、大きな笑い声が増えてきた瑞樹さんは、楽しそうに過ごしています。毎日大好きな図鑑に目を通して、歯磨きや洗顔等ほかの仲間の真似をして、自分で出来る範囲が広がり、自信もついてきたようです。二人とも体調不良でのお休みもなく、ほぼ毎日通ってきてくれています。まだ慣れないこともあり、全て順調ではありませんが、先ずは健康を最優先としながら、少しずつ安心できる日々を送って欲しいと思います。

今年度、つくしホームでは、数年前から検討していたサービス提供実績記録（個別記録）の様式を見直しました。記録方法も要点を絞ったものに変えることで、一目でわかるようにしました。限られたスペースでも、少しでも正確にわかりやすく伝えたいと考えています。

伝える、伝わるということは、なかなか難しいことです。客観的というものが加わればなおさらです。

今から数十年前のことです。ある利用者さんについて「この人は堅い食べ物食べられないから気を付けて」と念を押されました。また、「靴下をはくことはできません。」とも伝えられました。窒息・誤嚥（ごえん）の危険があるのでお昼ご飯は特に気を配りましたが、次第に不思議に思い始めたことがあります。あまり嘔まずに飲み込んでしまうことは確かですが、その方の歯は丈夫で歯並びもよく、食べるときに嘔み碎けることが確認できています。ある時、頂いた「たくあん」が配られました。すると、その方がたくあんに箸を伸ばしたように思いました。（この方は弱視です）「もしかして？」と思いつつ、小さめに切つてその方に渡しました。するとすぐに口に入れて、「ぼりぼり」と嘔み碎いて食べてしまいました。その後も何度も同じことが続き、たくあんだけでなく、



おせんべいなども食べるようになりました。また、ある日、送り出しの職員がいつものように足のところに靴下を用意しました。その時少し不安定な気持ちになっていたその方は、「靴下を履きましようか」という言葉が言い終わらないうちに、靴下を奪い取るようにして「するっ」と足を入れてしまいました。もう一方の靴下も同じように履いてしまいました。

少しくすんだ白いレースの靴下を思い出すたびに、今でも笑いが込み上げます。それからは介助もなくひとりで靴下を履いていました。偶然であつたのなら、何度も同じことができるとは思えません。それまでの情報が一部抜け落ちていたか、勘違いで

あつたのでしようが、たくあんに箸をのばすことが「たまたま」で、靴下を履いたことが「はずみ」だと考え、一方的に介助してしまえばこの事に気付かなかつたでしょう。小さな出来事かもしれないけれど、このことに気付かなければ、次はこんなものも食べてもらいたい、という楽しさや、靴下をつまむ器用さがわかることで作業や創作の幅が広がって、何ができるかな、という期待が膨らむこともありませんでした。また、うができない、と聞くと、それが事実であってもそこで終わってしまうような気がします。できない、という言葉の前に「まだ」という言葉をつける、「今はここまでできる」という伝え方をするだけでも、捉え方がずいぶん違うと思います。同じ行動や動作も見ると人の考え方によって基準や尺度が違います。人に伝えるときには、事実が事実として正確に伝え、自分の考えや想いを添える時には、それをきちんと伝えることが必要になると思います。

つくしホームの生活の中でも、利用者さん達は様々な形で自らの意思を伝えてくれます。直接ではなく、何かのサインを送っていることもあるでしょう。私たち職員は、常に心のアンテナを伸ばし、感性を養うことを忘れないでいたいと思います。

（つくしホーム 施設長）

「つくしとの出会い」

増田由紀子

縁あってつくしホームに支援員としてお世話になりました。

思えばわが息子が三歳の頃でしょうか、つくしに通った時期もあり同じ悩みを抱えた人たちとの交流や勉強をさせていただきました。あれから早三十数年経ちましたが、親子共にお世話になりました。

支援員として、また当事者の親として、二面からみさせて頂きました。障がいと一口に言いますが様々な人がいらっしやいます。

その人、その子にあったできごとを積み重ねて、自信に繋がるように祈り続けました。

「何ができるのだろうか？」と模索しては失敗もありましたが、「つくしのお母さん」として見守りました。無理強いせず、やれる時に行い、ただ待ち続ける事も多くありました。自ら私を受け入れてもらえる事により、訴えを起こす行動などが日々増えてきました。精神的に落ち着きを取り戻していただけるようになったKさん、嬉しい限りです。

余り動く事が苦手なMさん。特技を生かし、集中。きれいに勝るものはない物づくり。自信が持てるようになりました。次に何を行うのか？動き出しも早くなりましたね。



(つくしホーム旧職員)

自ら考えて「どうして行おうか？」とTさん。手助けをする事で、必要な物やそうでない物とが区別されて整理が上手になりましたね。まだまだ限りなく成長する姿が楽しみです。現在、私自身離れた場所から成長する姿を見ることができなくなり、力が「大」であり、それを支えつつ、頑張る親子さんの姿に感動し、「良かったなあ」と思わずにはいられません。時折訪ねては皆様の顔を拝見できたらと思います。

人生は長い道のりです。色々な思いも沢山ありますが、お互いに健康に気を付けて、親として頑張ります。子供達の為にこれからも進み続けていきたいと思います。

日々全力、元氣です！

土屋あづさ

四年前までつくしの家でお世話になっていた土屋草悟の母、あづさです。私達夫婦のもとに待望の赤ちゃんがやってきたのは、結婚をして五年目のことでした。不妊治療をくり返し、やっと安定期に入って間もなくのことでした。仕事中に急に出血してしまい、救急で菊川病院に入院し様子を待っても子宮口が閉じず病院では処置ができないとのことで、東名集中工事が行われ、渋滞しているハイウェイの路肩を走って浜松医療センターに救急搬送されました。到着後、すぐに検査をし、今から出産するか、それとも感染症などのリスクを抱えながらもお腹に残しておくか、選択肢は二つと主治医と看護師さんより説明を受けました。お腹の胎動をしっかりと感じていたこと、そして私達夫婦の赤ちゃんならきっと大丈夫と信じて、当日の出産を選択しました。出産。産声があったようになかったような、記憶はありませんが、先生や看護師さんが慌ただしく動いていたのは覚えてます。

七ヶ月に入ったその日。平成二十年十月十四日。千百十gのとても小さく真っ赤な赤ちゃんが誕生しました。母子手帳には、蘇生仮死と記されています。雑草のように強く逞しく育



ってほしいということ、草」という文字を、そして、私達にお腹から早く出すよう知らせてくれた様な気がしたので「悟」という文字を合わせ、草悟と名付けました。NICUの先生や看護師さんのおかげで、水頭症、未熟児網膜症、様々な手術を受け、半年後によく退院することができました。ミルクを口から飲むことができない草悟は経管栄養チューブを鼻腔から胃に通し、家に戻ってきました。待ちに待った、家族三人での生活のスタートです。

ミルクを注入してもすぐに吐き出してしまい、今では笑い話ですが、当時はとても辛かったです。草悟は私以上に辛かったと思います。その後もつくしの家に入園するまで幾度となる入院をくり返しました。尿管膀胱逆流手術に水頭症の手術、腎盂腎炎、髄膜炎と。水頭症でシヤントが入っている人は髄膜炎になる感染を避けるため、異物であるシヤントも一度ぬかなければなりません。頭を開けることへの不安は何よりも心配でかわいそうでした。

平成二十三年四月。私の職場復帰を機に、つくしの家にお世話になることになりました。自分の子どもが障害を持って初めて知った療育の場そこは、優しく、明るい癒しの場所でした。子ども達はもちろん元気に、そして個性豊かな先生達。そして気の合うママ友との出会い。ここに任せたら大丈夫！と確信しました。友達とのかかわりはもちろん、家ではできない体操。摂食のトレーニング。排尿排便のトレーニングと。先生方のご指導には今でも感謝しています。楽しい四年間を過ごさせていただきありがとうございます。いろんな病気を乗り越え、現在は経管栄養チューブがとれ、てんかんの発作や歩行ができないなどの他、発達も未熟ですが、元気に過ごせています。

さて、つくしの家を卒園してからです。住まいが御前崎市の浜岡地区ということもあり、現在は掛川特別支援学校に通っています。支援学校はどんなところなのか？不安を抱えている方もいらっしゃるのではなにかと思います。これから支援学級に行くか、つくしの家に残るか悩んでいる方もいるかもしれません。私達夫婦の考えはこうでした。たっさんの友達と専門の先生がいるところ。ちゃんと教育を受けるのが草悟のためになる、と考え、迷わず支援学校を選択しました。その考えは間違

っていないかと思えます。なぜなら、毎日楽しくバスに乗って登校し、クラスの友達だけでなく、部を超え、学年を超え多くの友達と遊んでいるからです。勉強はまだ数字もひらがなもわかりませんが、話す内容や、言葉の数、表現がとても豊かになってきています。明るくて元気！地域のお祭り大好き！イタズラも大好き、そしてアイパッドでチューブを見るのが大好き。今の夢は車イス選手！です。



就学に向け、私が準備した事は特にありませんが、草悟が友達や先生など多くの人に愛されるよう、こんにちは。おはよう！ありがとう、などの言葉をちゃんと伝えられるように小さい頃頃から声掛けしてきました。挨拶は魔法の言葉です。明るく声を掛けられると何だかうれしくて、笑顔になれ、初めて交わす相手との距離を縮めてくれます。実は、入学当時、肢体部一年一組は六人のお友達で、つくしの家から入学したのは草悟だけでした。そんな親の不安をよそに、入学式の時、お友達に『おは

よう！』や『バイバイ』をした草悟のおかげで、クラスのお母さん達とも話をするきっかけができました。やはり同じ境遇をもっている親同士。今では会話も弾んでいます。

早いもので学校生活もう四年目となりました。毎日学校と放課後等デイサービスに通い、日々全力で過ごしています。つくしの家の時のように学校まで送迎をすることがなく、先生ともお話をする機会が減り、ノートで学校の様子を知るという事が、最初は何だか寂しく思いましたが、今は、これが学校に通うという事だと理解しています。まだまだ学校生活は長く、これから大きな壁にぶつかったり、思いもよらないハプニングに見舞われることもあるかと思えます。そんな時は先生方やお母さん方のアドバイスをもらいながら家族で乗り越えていきたいと思っています。

(つくしの家 卒園児保護者)



今年の夏、ここを卒園した先輩のお母さん達に来ていただき、つくしにいた頃のこと、卒園してからの学校生活のことなど、つくしに通っているお母さん達にお話をさせていただきました。その時、草悟くんのお母さんが話して下さった内容を、今回紹介させていただきます。

ご挨拶

早いもので、今年もあと一ヶ月を残すのみとなりました。今年、北海道での地震や、夏の猛暑、例年がない強い台風が続いて発生し、各地で大雨や強風、土砂崩れ等大きな被害をもたらしました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く落ち着いた生活に戻れますよう心よりお祈り申し上げます。

つくしの家には、今年度一歳から十三歳の子も達、つくしホームには十八歳から七十一歳までの利用者さんが通っています。普段はなかなか一緒に活動はできませんが、年一回、秋に合同の運動会を行っています。今年も市の体育館をお借りし、お客様やご家族の皆様と一緒に、にぎやかな運動会ができました。後援会の皆様方をはじめ、ここを応援して下さい下さる方々には、今後とも変わらぬご支援をお願いしご挨拶とさせていただきます。

取扱金融機関のご案内

三菱東京UFJ銀行静岡支店
普通 4254072
口座名 つくしの家後援会
(以下同じ)
静岡銀行相良支店
普通 145949
掛川信用金庫相良支店
普通 17085
島田信用金庫相良支店
普通 134511

郵便振替
00820-5-57983
口座名 心身障害児通園施設
つくしの家後援会

つばき

◆つくしの家のあゆみ

五月 ◎日本平動物園に親子バス遠足に行きました。◎父親参観日は自由参観にしてお父さんが来れる時間に活動に参加して頂きました。

六月 ◎津波を想定して、津波避難タワーや金刀比羅山防災公園への避難。車イス・避難車・走る子・おんぶ等、それぞれの方法で避難しました。◎優希君、将雅君が入園しました。◎今年も小堤山公園で親子レクレーションを楽しみました。市内のスギモトシートさんのご厚意でテントをお借りしました。◎市内の結婚式場「うおとも」様から、三十六回目の食事会のご招待をいただきました。◎卒園して就労支援事業所で働いている杉本優弥君が子ども達へお菓子を届けて下さいました。◎相良保育園のお友達が「花の日」でお花を届けてくれました。ありがとうございます。

七月 ◎保護者学習会、つくしを卒園した先輩のお母さん四名に来ていただき、子育てや学校生活のことなどのお話をしていただきました。◎今年で四十三年間続いている阿佐ヶ谷教会の皆さんがワークキャンプに来て下さいました。

八月 ◎今年の夏もサマーショーツ

ポランティア五名、吉田特別支援学校の先生方、相良中学校の伊藤先生、さくらこども園の増田先生、市ファミリーサポートセンター任せて会員の皆様、玉川学園高等部の皆さん、個人ポランティアさん、卒園児の皆さんが来て下さり、にぎやかでした。

九月 ◎新しいお友達、一輝さん、夏連君が入園、職員では鈴木綾先生が加わりました。◎お楽しみ会、いろいろなブースをまわりにぎやかな会になりました。◎袋井市第三地区民生委員児童協議会の皆様が見学にみえました。◎相良中学校からご招待での体育大会に参加しました。◎祖父母参観会、この日は相良地区のお祭りでお獅子が登場、びっくりしました。◎島田法人会相良支部女性部の皆様がお拭き、手作りのプレゼントもいただきました。

十月 ◎民生委員の皆様と保護者会で園庭の草刈りをして下さいました。◎ジャンボエンチョー相良店様よりチューリップの球根をいただきました。◎県の健康福祉大会で大石智子先生と藤波恵先生が永年勤続で表彰されました。◎市の海浜体育館で運動会を行いました。今年も市内の矢部製作所様の大型トラックをお借りし、用具運びました。



絵:かずひさ

◆つくしホームから

5月 ☆民生委員さんとの交流会。今年度は4回計画。初回は川沿いへ気持ち良い風を受けて歩き、笑顔の絶えない散歩となりました。☆保護者の皆さんによる食事会。年4回開催予定で、1回目は具だくさんのまぜ寿司とサラダにみんな大満足。雨の中、奉仕活動もしてくださり、きれいな庭になりました。

6月 ☆牧之原小4年生の皆さんと交流会。初めに歌った歌をアンコールで最後にも歌ってくれました。☆第2回ボウリング大会を行い、補助具も使って利用者さんもハッスルしました。☆36回目となる「うおとも様招待食事会」で、食事にダンス等を楽しみました。毎年本当にありがとうございます。☆相良保育園の「花の日おはなし会」できれいな花を可愛い笑顔と共に届けていただきました。☆秋間小4年生の皆さんとの交流会、グループに分かれての交流では、手作りゲームで大いに盛り上がりました。☆民生委員さんと2回目の交流会。暑い日でしたが、涼しい場所を探して楽しく歩きました。☆静岡こども福祉専門学校2年生2名実習。

7月 ☆牧之原消防署の皆さんに来ていただき、訓練用消火器を使っての消火訓練を行いました。☆短冊に願いを書いて、七夕祭りを行いました。☆阿佐ヶ谷教会「地の塩会」の

編集後記

今年は、北海道地方に強い地震が起り、多くの強い台風による被害も各地で広がった1年でした。つくしの家では、台風24号通過後、丸1日停電になってしまい、周囲の市町ではそれが数日続き、ライフラインの大切さを強く感じ、被災された方々が1日でも早く安心した生活が送れるよう、心から願います。皆様よいお年をお迎えくださいませ。

皆様と「プール&夏祭り」を午前中楽しみ、教会の皆さんは午後の暑い中、草刈りなどの奉仕活動をしてくださいました。☆最初のグループ外出。アピタ島田店で昼食をとり、買い物を楽しみました。☆吉田特別支援学校高等部2年生1名実習。☆薬科鮎子さん退園。元気でね。

8月 ☆夏季学童クラブを実施。☆玉川学園高等部の皆さんがたくさん来て下さり、たくさんのかかわりが持てました。

9月 ☆相良中体育大会にご招待。福祉交流種目に参加しました。☆市内の大橋利奈子様が、フルート、ピアノ、チューバによる演奏会で、いろいろな曲を演奏してくださいました。☆島田法人会相良支部の皆様が窓ふきをしてくださいました。

10月 ☆今年から半日の運動会。安衣さんの選手宣誓、素敵でした。沢山の応援ありがとうございました。